

どんびま

2014年12月19日発行
発行者 椀の湖農業小学校

鎌田宮雄先生やすらかに

12月10日、椀の湖農業小学校前校長の鎌田宮雄先生が亡くなりました。享年87歳でした。

農小は、あぼ兄が「農業小学校のうた」という絵本に出会ったことから始まった。あぼ兄の話に先ず乗った（乗せられた？）のが故古井実くんと私だった。およそ教育などには無縁の3人だったから、仮にも学校を名乗るからにはそれに相応しい人に「顔」になってもらわなければと考えた。

私たちのフォークの仲間の父上で、小学校の教職を辞められたばかりだった宮雄先生にお願いすると快く引き受けてくださった。

4人で何度も話し合いを重ねる内に「たがやし ひとなる」の合言葉が生まれ、自分達のやりたいこと、やれることを形にしていく計画が立っていった。2人の地主を含む10人の発起人会が動き始めた。2年の準備期間を

経て、1994年3月開校。101人の生徒さんを迎えた入学式は「この学校では、鍬がエンピツ 畑がノートです。・・・」という宮雄先生の挨拶で始まった。

農業小学校は定まった方針に皆が従うというのではなく、言わば各自がやりたいことを持ち寄ってやっていくという雰囲気できている。宮雄先生が「子ども達のための学習」に力点をおかれたのは言うまでもない。私たちも多くを学ばせてもらった。

その子ども達を指導していただく先生役には、地元の経験豊かな高齢者をということで、宮雄先生と同級生を中心に声をかけた。集まっていたいただいた方々の人柄と熱意は、子ども達、親さん達に感動を与えてもらった。農業小学校の形が段々整っていった。

宮雄先生は、教職の傍ら、ライフワークとして郷土史の研究や民話の蒐集をされた方で、故郷の坂下・上野や長く勤務された付知の「民話集」や、坂下・上野の民俗・歴史をまとめた著書「ふるさと坂下」を出版されたり、坂下町史を読みやすくまとめた「坂下小史」の編集責任者を務められた。農小の卒業文集も第6期までは編集を一人でやってくださり、そのやり方を今も引き継いでいる。

いかにも教師といったところは表に見せず、いつもにこやかに務めていただいたが、病気で身体が不自由となり、最後は車いすでの第10期卒業証書授与となった。その後は、自宅で療養されながら、農小を見守っていただいた。

今は、御霊やすらかにと祈るばかりである。

（草）



第21期卒業おめでとございます

嵐の中の入学式とは打って変わり、晴天に恵まれた温かい日に、9カ月間の思い出を胸に、名残りを惜しみながら卒業式を迎えました。

1 午前の授業 畑の収穫は、赤カブ、白カブ、ねぎ、さつまいも、ごぼう。今年最後の難作業は、なんと言っても牛蒡堀りです。何時の頃からか農小の卒業試験と云われるようになり、親子で力を合わせての挑戦は、昼食の時間が遅れる程の熱の入れようでした。最高は90センチを超える物が出ました。

2 収穫祭（昼食） 五平餅、杵餅（あんこ、きなこ、ぜんざい）、いも餅、味噌おでん、から揚げ、人参昆布サラダ、春菜のおひたし、白菜の梅昆布和え、こくしょ。

例年の如く今年最後の昼食は収穫祭として、盛り沢山の献立が用意されていました。特に五平餅は姉妹校の荒城農小の方たちが、孤軍奮闘して焼いてくださいました。いつもの年は2時間有る昼食時間が、牛蒡堀りに手間取ってしまったため、半分になりましたが充分堪能できたでしょうか。

3 卒業式 14時から、私立椛の湖農業小学校第21期卒業式。

1 校長挨拶 1年間良く通って頂いた感謝を込めて、おめでとうの祝福があり、農業に対して真剣に取り組んでいる姿にとっても感動し、農小の有るべき意義を強く感じたと話されました。

2 卒業証書授与 椛の湖農小独自の木の板に書いた証書と、農小で収穫したお米7合、文集、荒城農小からのプレゼントのりんごが、各グループの先生方から手渡されました。

3 表彰 皆勤者や各コンクールの成績上位が表彰されました。

*皆勤賞。 24名の生徒に大豆が賞品として送られました。

*バケツ稲。 夫々の評価ごとにシクラメン大中小が賞品でした。

*案山子。 人気投票上位と特別賞に、椎茸が賞品でした。

*ジャンボカボチャ目方当て。 3名に農場長独自で賞品が出されました。

4 来賓挨拶 荒城農小の方から、普段出来ない体験が出来る事は、必ず将来役に立つからと激励のお言葉がありました。

5 生徒代表挨拶 5グループ代表の関千夏さんから、数年間の楽しかった思い出と農小への感謝が報告されました。

6 父兄代表挨拶 1グループの全剛弘さんより、子供の成長に取っても大切な経験が出来たことへの、感謝の気持ちが述べられました。

7 先生代表挨拶 原多喜彦先生から、農小での体験を大切にして、楽しい思い出を残してくださいと話されました。

8 農場長まとめ 鈴村農場長より、作物に不出来な物が有った事の反省と、来期に向けての期待を込めたメッセージが発表されました。

9 校長お礼の言葉 あぼ兄より皆さんの1年間の労をねぎらうと共に、アクシデントも無く無事過ごせた事への感謝の気持ちと共に、来期も是

非参加をして下さる様にと期待を込めたコマーシャルもありました。
早くも22期参加申し込みも沢山ありました。

10 校旗降納 6年生全員により、9ヶ月間掲げられた校旗を降納して
第21期卒業式は無事終了しました。

11 プレゼント 佐々木先生より、6年生全員に「わら馬」のプレゼン
ントが有りました。これは坂下に伝わる「花馬祭り」に因む郷土民芸品
として馴染みのもので幸運を呼ぶ馬ですが、今や作る人が無くなりつつ
有り大変貴重な物ですので、戴いた方はとても幸運でした。

4 作品展 今年は先生方の出展が大変多くあり、見応えのある作品展となり
ました。中には芸術作品に近いものも多数あり盛況でした。

5 持ち帰り 大根は一人3本を自分で抜き取りました。あとは白蕪6ヶ、赤蕪
3ヶ、長ネギ1束、下仁田ネギ2本、牛蒡、サトイモ、サツマイモでした。
おやつに焼き芋もでました。

赤蕪は飛騨の漬物として有名ですが、農小のカブはとて大きくて丸漬けに
は出来ません。大根、人参などと一緒にスライスして軽く塩漬けした後、水気
を切って食酢を注すと綺麗な色に変わり食卓に花を添えますので「なます」と
してお試してください。

課外授業のご案内(物作り体験教室)

*12月23日(火・祝)

しめ縄づくりと花餅づくりを行ないます。
農小の藁を使ってしめ縄をつくります。
飛騨の郷土民芸「花餅」をつくってみます。

*1月4日(日)

今回は六角凧を作ります。毎年100Mのタコ糸一杯に揚がります。
左義長(どんど焼き)は自分達で作ってから点火します。

*2月22日(日)


絞り染めを行ないます。物作りでお馴染みの加藤緑先生により、
Tシャツ1枚(糊を落とした物)を絞り染めします。
中津川の郷土銘菓「からすみ」作りを行ないます。

☆ 12月以外は例年の「下野いきいき会館(中津川市下野 1423-7・下野庚申堂前)」
で実施します。

☆ 会費は一人1000円(昼食代含む)

☆ 申し込みはスタッフ 小林 銷男 TEL 0573-72-4835 まで。

～かなちゃんの虫日記～

おおも せいはい せいはい
大盛り1杯に、おかわり! たまにもう1杯 おかわり!! 

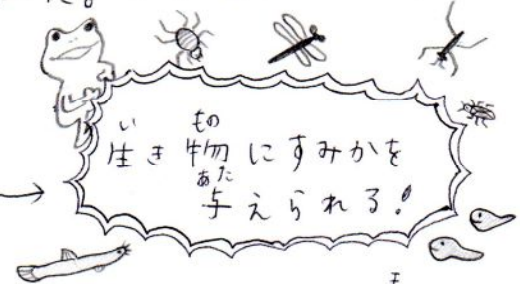
さいきん あたし いっしょく りょう あか
最近の私の一食のごはんの量です。赤ちゃんにおっぱいを
あげるとおなかがすくので、毎食これくらいごはんを食べて
います。これでもまた夜中におなかがすいて眠れない日もあります。

どんびき 175、176号の「あほ兄の百姓はなし」でごはんを
食べようという話があったのですが、赤ちゃんを産む人が増えれば
お米の消費量も増えるなあと思いました。でもそうでない人も
ごはんをたくさん食べましょう!

なぜなら...

お米をたくさん
食べる♡

たんぼが
使われ続ける



まいとし たんぼに みずがためられて いなでく おこなわれるのを 待って
いる 生き物はたくさんいます。

トンボのアカアカネは 秋に 稲刈り後の たんぼの 水たまりなどに
産卵します。春、たんぼに 水がたまるとふ化し、ヤゴ(ヤゴ)は
水中で生活します。

秋にアカアカネのお母さんは 来年もきつとお米が
作られると思って そのたんぼに産卵したのに、
もし次の年からお米が作られなかったら、もうヤゴは生きていきません。



たんぼが 使われなくなったら、いつか 絶滅してしまう 生き物は
たくさんいます。一度 絶滅してしまったら、もう生き返りません。

それを防ぐために 私達にできるのは、

ごはんをたくさん 食べる こと!! です 